

令和4年度 瑞浪市子ども発達支援センター運営委員会 会議録（要旨）

1. 日 時 令和5年2月16日（木） 午後1時30分から午後2時30分まで
2. 場 所 瑞浪市市民福祉センター 2階 ボランティア研修室
3. 出席者 笠原委員、加藤（誠）委員、河村委員、辻田委員
欠席者 水野委員、加藤（康）委員、廣瀬委員
事務局 子育て支援課 藤本課長、深谷
傍聴者 なし

4. 会議録（要旨）

1) 開会

2) あいさつ

子育て支援課長

本日は、お忙しいところ出席いただきありがとうございます。

今回の会議は2年半ぶりの開催となります

昨年の12月現在、瑞浪市では児童発達支援を利用した児童が58名、放課後等デイサービスを利用した児童が81名でした、ここ数年は放課後等デイサービスの利用者と一月当たりの利用日数が年々増えている状況です。児童発達支援については、少子化の影響で子どもの数は減っているものの利用者は横ばいとなっております。つまり支援の必要な児童は増えている傾向がみられます。このような中、児童発達支援を利用している児童のほとんどがぼけっとを利用しているという状況です。この運営委員会で皆様からいただいたご意見やご要望が、利用する子ども達や保護者に対するより良い支援につながると思いますので、忌憚のない意見をよろしくお願ひします。

3) 出席委員数の報告

7名中4名の出席により会議が成立

4) 委員自己紹介

5) 委員長選出

はなの木苑相談支援事業所 相談支援専門員 笠原佐知子 様

6) 委員長あいさつ

委員長

はなの木苑相談支援事業所で相談支援専門員をやっております笠原佐知子と申します
よろしくお願ひします。

8) 議事（1）「瑞浪市子ども発達支援センターぼけっと」について

－資料1に基づいて説明－

質疑 | 質問、意見なし

議事（2）令和4年度 活動報告について

—資料2に基づいて説明—

質疑 | 質問、意見なし

議事（3）令和5年度 活動報計画について

—資料3に基づいて説明—

課題の内容(事務局)

①コロナ5類移行後の体験学習、行事等の実施方法（通所支援）

体験学習については、コロナ禍以前はクッキングや電車体験など子どもの実体験を大切にした療育内容があったが、自粛をしていたが今後はこれらを実施していきたいと考えている。また、大きな行事についても以前、夏祭りは体育館を利用して200人くらいが集まって実施したり、クリスマス会もプレールームで150人が集まって実施していた。

コロナ禍において、複数回に分けてグループ開催という形で実施していたが、保護者にアンケートをとったところ、待ち時間が短くて良い。人の多いところが苦手なので、少ない人数で参加しやすいなど、今の実施方法のほうが良いという意見もあり、今後はグループ開催も一つの開催方法として考えていきたい。

②発達障がい併せ持つ、不登校児童への対応（通所支援・相談支援）

近年、発達障がいを併せ持つ不登校児が少しずつ増えている状況があり、学校と連携しながら、相談にあたっている。

放デイを紹介して福祉サービスにつながるケースもあるが、つながらない場合もあり、最終的に福祉サービスが途切れてしまう場合もある。今後の児童の活動のどこまでをぼけつとがかかわれるかが今後の課題と考えている

③障がい者支援への繋ぎ（相談支援）

これまで、相談支援で対応していた児童を、成人の計画相談につないだケースが2件ある、現在中高生のケースを10人持っているが、今後、成人の計画相談が混みあっているため、引継ぎが円滑にすすまない現状となっている。

質疑 | 質問、意見なし

委員長

相談支援専門員の立場で意見を言うと、先日、瑞浪、土岐市合同での相談支援部会を開催した中で、現状を確認したところ、どこの事業所（児も者）もパンパンの状況であった。瑞浪市には成人の相談支援事業所がなく、土岐市や恵那市、多治見市の相談支援事業所にご協力をいただいて、瑞浪市民の相談支援計画を立てているのが現状。

高齢介護のケアマネージャーは上限が決まっており、事業所としてもケアマネを増やすか増やさないかという指標が出しやすいが、相談支援事業所は、収入も少ないので手を出したがないのか増えていかないのが現状。

瑞浪市に成人の相談支援事業所がないということが、ぼけつとの課題ではなく、市の課題として考えてほしい。

市内に成人相談支援事業所ができれば、児から者の支援が途切れなくできるよ

うになっていくと思う。

議事（４）その他

なし

事務局

せっかくご参加いただいておりますので、委員の皆様から一言ずつ感想やご意見をいただけないでしょうか。

委員

8年ほど前、ぼけつとに通うより前に、保健センターにどんぐり広場というものがあり、そこで発語の悩みとか気になることを毎月、相談して、そこからぼけつとに通所という形につながっていった。

今、自発的にぼけつとに行かれているという方が多いが、いまだに通所についてハードルが高いと感じる方もいると思うので、どんぐり広場を復活してもらえないか。

瑞浪には事業所が少なく、また利用時に送迎ができないという話が事業所からあった。そういった部分の支援を事業所に対し、市からしてもらえるとありがたい。

成人の（相談支援）事業所について、早め早めに動いたほうが良いよという話を知り合いから言われている。現在すでに動いているが、移行がスムーズに進むか不安に感じている。今後どのように、（障がい）児から（障がい）者への移行を進めていったらよいのか、教えてもらえるまたは見にいける場所が欲しい。

委員

（障がい）児から成人の相談支援の継続というのは大きな問題となる。現実的な問題として、市とも協議しながら対応が考えていきたいと思う。

委員

幼稚園では、ぼけつと等からの情報をもらいながら、体制を整えることができている。保護者との懇談を踏まえ、必要な支援につないだりしている。

卒園後のことについても、保護者と話ができるようになればと感じた。

子育て支援課長

前々から感じていたことが、現実になってきたというのが（成人の）相談支援事業所の件になります。

障がいの部分は、瑞浪市は事業所が少なく、（障がい）者のほうは、どんぐりが頑張ってくれているが、少ないのが現状です。これからもいろいろなところに要望が必要かなとは思っている。

発達支援センターについては、職員が頑張ってくれているし、保護者への支援についても手厚いと感じている。

今日ご意見でいただいた、どんぐり広場については、市のほうで何か考えていきたい。

事業所を知りたいという部分については、社会福祉課と相談しながらパンフレット等が作成できればと思っている。放デイについては、今、パンフレットを作成中です。ホームページに掲載できればと考えている。

9) 閉会